

市議会議員1期目
平成31年4月 市議会議員初当選 トップ当選
会派 新和会
教育厚生常任委員会委員
公共施設対策特別委員会副委員長



細川としゆき 市政報告

議会質問項目

6月議会

- ① 大津市の観光政策の現状と具体的な取り組みについて
- ② NHK大河ドラマ「麒麟がくる」で大津が注目されるなかでの地元への支援について
- ③ 国際観光都市構想のもとで長年行われている坂本地域における日吉参道（都市計画道路3.4.46号比叡辻日吉線）の拡幅工事の進捗状況は
- ④ 大津市立保育園民営化方針について
- ⑤ 家庭教育や社会教育の大切さについて
- ⑥ 学区公民館を廃止することについて
- ⑦ 生涯学習専門員を廃止することについて
- ⑧ 学校現場への予算措置について

9月議会

- ① 社会教育の充実について
- ② 学校施設改修について
- ③ 市長のマニフェストにもある学校施設のトイレ改修について
- ④ 文部科学省の教材整備計画について
- ⑤ 学校給食について
- ⑥ 大津市立天神山保育園の存続について
- ⑦ 障がい児保育にかかる民間保育園への補助の拡充について
- ⑧ 都市計画道路3.4.46号比叡辻日吉線の拡幅工事の見通しについて

11月議会

- ① 小中学校及び幼稚園の用務員の業務を民間委託することについて
- ② 教科書採択について



受け付けた要望書及び請願書

- ① 都市計画道路3.4.46号比叡辻日吉線の拡幅工事に関すること（要望書）
- ② 藤木川架橋の整備に関すること（要望書）
- ③ 天神山保育園の存続に関すること（請願書）
- ④ 公民館の存続と生涯学習専門員の配置に関すること（要望書）



【議会質問内容要旨】

公民館をコミセン化する方針のなかで、今後どのように社会教育の推進をするのか

8月22日に教育委員会臨時会が開催され、条件付きで公民館の廃止が決定された。今回の公民館の廃止決定は教育委員会としての主体性や独立性が発揮されない結果で、教育関係者の一人として、誠に残念。教育委員会の判断は拙速であったと思っている。平成25年11月の「大津市の公民館のあり方」で「公民館は1学区1公民館の体制を維持し地域活動の核として市の職員と市民がともにまちづくりについて考えていく」とした答申や、教育長の平成31年4月の校長会議で「家庭教育、学校教育、社会教育を充実させることが教育委員会の仕事です。社会教育は図書館、博物館、公民館その他社会教育施設の振興に努めなければならない」と講話されている内容とは、大きな矛盾を感じ、教育長に大きな期待を寄せていた者として、誠に残念である。公民館を廃止することは、これまでの社会教育のあり方を大きく変えるということで、しっかりと地域住民や学校現場の意見を聞いたうえですすめるべきだ。そこで、教育委員会として、公民館を廃止したのち、どのように社会教育を推進、充実していくのか、そのビジョンを伺う。

学校施設改修の現状はトイレの洋式化は急務では

文部科学省では教育委員会に学校施設の老朽化対策として、安全性を確保するため改修計画「長寿命化」を策定するよう求めている。

本市では学校施設改修はこの1年間行われていない状況。築40年近い学校施設もあり、老朽化によるリスクが大きいため、子どもや職員の安全確保を考えると、その対策は急務。高額な予算を伴うことから戦略的に計画的に実施していくことが大切だ。どのように、学校施設改修を進めるのか。市長のマニフェストにもある学校施設のトイレ改修の現状は家庭のトイレが洋式トイレとなっている現状から、学校のトイレの洋式化は必要不可欠。また、汚い、臭いといった状況も改善が必要である。他市ではトイレの全面改修を大規模改修とは別に行った例もある。そこで、本市においても、すべての学校において思い切った全面的なトイレ改修を実施すべきと考えるが如何か。

文部科学省の教材整備計画を実行しているのか

新学習指導要領の改定に伴う教材について、文部科学省が教材整備指針を示し、平成24年度から33年度までの10年間、義務教育諸学校における新たな教材整備計画により単年度措置800億円、10カ年総額8000億円の地方交付税措置を行っている。本市においても教育委員会として財源を確保し、相当に整備が進められていることを期待しているが現状の達成状況を伺う。

中学校給食にともなう教職員の負担と軽減措置は

学校給食については新しい給食センターの設置など財政的負担が大きいなか精力的に進められており、令和2年1月には中学校給食も開始される。給食については学校現場の教職員の負担が大きい。給食の発注や変更の手続き、配膳の準備や後片付けへの労務、アレルギーがある子どもへの対応、とくに学年が低い子どもほど教職員のきめ細かな配慮が求められ、責任も問われることから精神的負担が大きい状況である。

昼の休息時間の確保も大変難しい状況で、学校給食は従来から教員の大きな負担のうえに成り立っているものと考え。教職員の負担を軽減するような措置、例えば人間的な措置など、具体的にどのような措置をどのようにとられるのか伺う。

学校配算予算の減額について

予算書によると学校現場での消耗品や備品などの学校管理運営費が要望額から小中学校合わせて7000万円近く減額されており、年間を見通した学校運営を行う上で大変難しい状況にある。このことは、適切な予算であると考えているのか。



坂本日吉参道の遅々として進まない拡幅工事の現況と今後の事業の見通しは

都市計画道路3.4.46号比叡辻日吉線の拡幅工事は昨年度末までに55件中18件が完了し、事業進捗率は32.2%となっている。しかしながら、今年度の事業予算は事業を積極的に推進しようとする意欲をまったく感じさせない少額の130万円という予算と止まり、遅々として進まない状況となっている。大津市が都市計画道路事業として申請をし、滋賀県の認可を受け国の補助事業として令和元年までの計画で、5年間延長されると聞いていたが、大津市として責任をもって、速やかに事業推進に努めなければならないもの。こうしたことは、本事業に全面的に協力してきた地元住民の思いとは大きくかけ離れたものとなっており、極めて問題である。こうした遅々として拡幅工事が進まない状況をどのように考えているのか、見通しはどうか。

天神山保育園の公立保育園としての存続を

大津市は財政難を理由に、公立保育園にかかる経費削減のため、近接した地域に、2つの公立保育園があるという理由で天神山保育園は民営化の対象となっている。その周辺の地域を見ると、下阪本、坂本、雄琴、仰木、仰木の里に公立保育園がなく、現在、天神山保育園の在園児の50%以上が下阪本、坂本、雄琴、仰木、仰木の里、仰木の里東学区在住であり、今日まで天神山保育園が唐崎保育園と堅田保育園の中間のエリアをカバーする役割を担ってきた。

また、保育士不足で定員割れをしているなか、唯一定員以上の子どもを受け入れている公立保育園である。天神山保育園の保護者にしてみれば、この民営化計画の議論や説明が唐突であり、昨年入園した子どもたちの入園時には聞かされず、その後も合意形成がなされないままに財政難を理由に進められることに大きな不安とともに怒りを感じている。天神山保育園の在園児が少なくとも卒園するまでの間、公立保育園として存続させるよう強く望まれている。そこで、パブリックコメントでの意見や天神山保育園の存続を求める請願の採択の結果からどのように対処するつもりか伺う。



障がい児保育にかかる民間保育園への補助の拡充について

全国的な傾向でもあるが、保育難度の高い子どもたちが増加している。大津市内の障害が重度の子どもについては、公立と民間の受け入れ状況は、公立保育園の1園あたり4.00人に対して民間保育園では1園あたり1.43人となっている。

中度の障害についても公立保育園では1園あたり5.28人に対して民間保育園では1園あたり2.58人となっており、公立保育園の方に障害がある子どもの受け入れが多いという状況となっている。

それは、公立保育園の保育士の支援の経験値が高いことに加え、療育等児童福祉のネットワークにより支援がしやすい状況があると思われる。そこで、保育の質を確保し、民間保育園の障がい児保育の充実のための補助金を拡充することについて、どうお考えか伺う。

小中学校園の用務員の雇い止めについて

用務員の業務の民間委託については、これまででも、退職や再雇用の状況に応じて、順次、進められてきたところである。今回、十分な説明を伴わない、民間委託への急激で、早急な移行については、雇用される側の生活保障など、大きな問題がある。理由はどうか、31人の用務員が職を失うことになる。このことは、地方公務員法等の改正により創設された「会計年度任用職員制度」の趣旨にそぐわないものであり、臨時的任用職員から会計年度任用職員制度への必要な移行について、雇い止めに当たるもので、会計年度任用職員制度の趣旨に合致していない。雇用されている人の生活設計も考慮して、徐々に無理のない規模で計画的に行っていくことが重要であると考え。市の見解は。